

## 神戸女学院史料室だより

一九八四年は神戸女学院史料室にとって、人事面での多少の動きを別とすれば、まずは平穏な一年であった。

人事の上では、まず、一月末に鈴木(佐伯)睦嘱託職員の辞任(三月九日長女出産)、三月末に史料室委員の真多ヨシエ図書館事務長の定年退職があり、四月の新年度に入ってから吉年ユウ子嘱託職員(高等学部94回・大学総合文化学科98回同窓生)の着任を見、また、刀禰 康図書館事務長に史料室委員が委嘱された、但し刀禰事務長にとってこの年は、図書館新館落成の諸務と健康上の理由とが相俟って、多事多端であったと窺われる。一方、史料室委員長渡辺久雄顧問は、すでに前年から神戸女学院岡田山移転を記念する建築記念帖の編集を委嘱されて盡力の末、まさに移転五十年目の一九八四年四月、『岡田山の五十年』と題する書物の刊行を実現、『神戸女学院百年史』と同趣の装丁の記念帖が世に問われた。

史料室そのものの事を言えば、これが正式に大学研究機関の一として大学案内誌上に紹介されたこと、またこれまでになく多く外部からの訪問や問い合わせに与り、関係者一同大いに励まされ啓発されたことを記憶にとどめたい。実務の上では人員・設備共に不備不足なしとはいえない、本学院の在校生・卒業生はもとより、他学園の先生方や同業の方々・学生諸氏：と広く交流の機会に恵まれたことは、この種の仕事の恩典でもあらうか。

(若山 晴子)